

富岡地域づくり 協議会だより



第28号

令和6年2月12日

広報委員会

<https://www.town-tomioka.click/>

富岡地区体育祭が開催されました



令和6年10月8日（土）午前8時より、富岡中学校グラウンドにて、富岡地区体育祭が開催されました。新型コロナウイルスの感染による中止が続いていたこと等により、5年ぶりの開催になります。

つい先日まで暑い日が続き、観測史上の記録になったという報道があり、この当日もこうした状況が続くのではという心配がありました。「季節は確実に動いている」というあるアナウンサーの言葉が聞かれました。ついこの体育祭の数日前の報道にあった一言です。すなわち、これが実施される頃は、秋が近づいて来るのかという期待が持てる状況にあったということになります。



体育祭当日はというと、くもりの天候で、暑さを気にしなくていい一日となりました。この意味では良かったかと思います。

さて、先にいうように前回の体育祭から久しく時間が経っての再開ということになります。この「再開」ということに、今回は大事な意義を見いだせるのかなと思います。



今までに培ってきたノウハウや用具及び道具の準備があったのは事実ですが、前回のことを知っていて、これらを活用できる人がどれだけいるのか心配もあったからです。富岡まちづくりセンターの職員をはじめ、各自治会の会長さんや役員さん、ひいては体育部長さんも何人残っているかも気になりました。間が開いたために、選手を集うことも大変かなという思いもありました。



こうした様々なことを勘案し今回は種目を限定して、午前中で終わるように計画しました。いろいろな意味で「負担を少なく」するようにしたことによるものです。

こうした状況下で実施した「第62回富岡地区体育祭」でしたが、多くの自治会のご賛同とご参加を得て、結果的には成功裏に実施できたと思います。大勢のご来賓の皆様にも応援のためにご来場いただきました。

自治会対抗競技は、5種目と多くはなかったのですが、それでもわが自治会を代表して、思う存分力を発揮していたのが印象的でした。玉入れや綱引き等、大勢の力を結集して臨む競技等には、応援する側にも力が入る

思いでした。自治会対抗競技が限定された分、一般参加の競技が増えたことも良かったのかもしれない。

結果は、優勝ネオポリス自治会 準優勝郊外マンション自治会 3位さつき台自治会でした。

結びに、選手として各種目に参加いただいでご活躍いただき、また、競技を盛り上げていただきました皆様、本当に有り難うございました。また、役員として本事業の運営にご尽力賜りました皆様には、衷心より感謝申し上げます。

今回の再開を機に、成果を次回に生かしていければと思います。

「所沢市総合防災訓練」が開催されました

令和5年9月2日(土)
8時00分より、所沢市総合防災訓練が実施されました。

昨年同様、道傍公園・中富小学校・富岡小学校・富岡中学校・西富小学校の5会場での実施でした。各会場に割りあてられた対象自治会が集い、予定・計画した訓練が行われました。

1923年の関東大震災から9月1日で100年を迎えました。震源は神奈川県西部で、マグニチュード7.9の巨大地震だったそう



です。小田原市や三浦半島で岩盤が大きく滑ったりずれたりしたようです。ずれ幅の平均が2.1m(最大100m近くずれたところもあったとか)で、阪神淡路大震災の1mを大きく上回ったということです。午前11時58分の発生と相まって火災が起き、10万5000人以上の犠牲者が出たそうです。そのうちの9割は火災による焼死だったというデータもあります。火災旋風で火の回りが早かったという記録もあります。海域では津波が発生し、山間部では土砂災害もありました。

火災に脆弱な木造住宅や人口が密集する都市構造など、複数の要因で被害が拡大した、都市型災害でした。

関東地方は、4枚の陸と海のプレートが複雑に重なり合う地震多発地帯で、「地震の巢」とも称されています。M7級の首都直下型地震が起こる確率は、30年以内に70%だといわれています。

いつ起こるかわからない、ないしは、いつ起こってもおかしくない地震に備えて、自分の身を守るという観点から、こうした防災訓練に参加してみるのも一考かと思います。こうした機会を是非ともご利用いただきたいと思います。



<編集後記>

あれ松虫が鳴いている ちんちろちんちろ ちんちろりん
あれ鈴虫も鳴き出した りんりんりんりん りいんりん
秋の夜長を鳴き通す ああおもしろい虫のこえ

「虫のこえ」という文部省唱歌です。歌詞には、マツムシ(松虫)・スズムシ(鈴虫)・コオロギ・ウマオイ・くつわ虫の5匹の虫が登場します。そのそれぞれが個性的で楽しい音色を奏でます。

1912年の唱歌集に掲載された文部省唱歌のひとつです。この『尋常小学校唱歌』は、文部省が当時の東京音楽学校に依頼して編纂されたものだそうです。編纂委員会を組織し、その教授を中心に構成された委員の合議によって作曲されたものだそうです。そのため、個々の曲の作詞者・作曲者は伏せられたままになりました。これにより、作詞・作曲者不詳とされています。

この曲は、ドイツ民謡の「山の音楽家」を彷彿させるものがあると思うのですが、どうでしょうか。

秋の夜長に、虫の音を堪能するのもいいかなと思います。静寂のなか、自然体で虫の音に聞き入るのも人生の醍醐味かなとも思います。